

令和5年9月5日 環境生活委員会 開催状況

開催年月日 令和5年9月5日(火)  
 質問者 日本共産党 真下 紀子 委員  
 答弁者 文化振興課長 越田 習司

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 北海道博物館の保管するアイヌ遺骨等の取扱方針(案)について</p> <p>(一) アイヌ遺骨等の収蔵経緯について                  私からも今報告のありました「北海道博物館に保管するアイヌ遺骨等の取扱方針(案)」について、経過を伺います。アイヌの遺骨に関しては、石川議員からも紹介ありましたけれども、研究を名目に持ち去られていたり、盗掘までされていたという歴史があって、アイヌの尊厳ですとか、人に対する敬意というものが無い中で、こうした状況が生まれていて、遺骨の返還については、大きな願いと運動があったものと考えています。                  北海道博物館に収蔵されている遺骨についてですけど、収蔵に至った経緯について、寄贈されたと先ほど答弁されておりましたけれども、少し具体的に伺いたいと思います。発掘発見された経緯がどのようになっている、どのように入手をされたのか、また開拓記念館時代で不明なことも多いとは思いますが、盗掘された遺骨はないのかなど、どのようになっているのか、また、今後調査をしていくのどうか伺いたいと思います。</p> <p>(二) 出土地域の特定や公表時期について                  遺骨ですから、ご本人の意思ですよね、ご家族の意思で博物館に寄贈されるに至るまでの中で、そういった方たちの意思が反映されたとは言えないのではないかなと思っております。それで遺骨ですとか、一緒に埋葬されているものとか、こうした出土地域の特定はされているのでしょうか。また、地域返還のためには公表されることが必要だと私は考えておりますので、情報は公表されているのか。もし公表されていないとするなら、いつ公表されるのか併せて伺います。</p> <p>アイヌの精神文化やアイヌの皆さんの心情を鑑みると、やはり、何人であっても元の自分の墓というかコタンの土に安らかに永眠できるようにすることが、道の役割でないかと考えます。今の報告の中で、アイヌの人々による尊厳ある慰霊を実現することとなっていますけど、今の慰霊のあり方アイヌの人たちが望むものでなければならぬと思いますので、そうしたことを十分に反映した対応にしていきたいということを申し上げます。</p>	<p>(文化振興課長)                  収蔵に至った経緯についてでございますが、北海道博物館で保管するアイヌの方々の遺骨等は、1970年代から80年代初めの北海道開拓記念館の時代に寄贈を受けたものでありまして、受け入れ当時のことを記した現存する資料等が限られておりますことから、寄贈者の入手経緯等については、把握できていないところでございます。今後は、地域への返還に向けた関係団体や市町村との協議や調整を進めていく中で、引き続き、新たな情報の把握に努めてまいります。</p> <p>(文化振興課長)                  遺骨情報の公表についてでございますが、北海道博物館で保管しているアイヌの方々の遺骨等の出土地域については、特定を終えているところでございますが、その他、地域返還にあたり必要となる情報とともに、今後、パブリックコメントを経て策定する取扱方針と併せまして、11月に予定されております本委員会に報告後、公表することとしております。</p>